

まさおのたび

23 2 20

ボン、ボン、ボン
とけいが ここのつ うちました。
まさおは、ねとこで、大きな目を
ぱちぱち させて います。
あしたは、いなかの おじさんの
うちへ いくので、うれしくて、
なかなか ねむれないのです。
いもうとの みちこは、となりで
もう すやすやと ねむっています。

ジャン、ジャン、ジャン。
あつ はんしょう^{*1}です。
しょうぼうじどうしゃが とんで いきます。
まさおは びっくりして とびおきました。
「まさお、だいじょうぶだよ。しんぱいしないで、はやくおやすみ。」
まどから そとを みて いた
おとうさんの こえに、
まさおは ほっとして、ねどこに もどりました。
「まさお、まさお。おきるんですよ。」
まさおは げんきよく ところ^{*2}をでました。
いそがしそうな おかあさんおかげが、しょうじ^{*3}に ゆれて います。
まくらもとには、ようふくが きちんと そろえて ありました。
ごはんの したくも できています。
「おかあさん、いって まいります」
「きをつけてね。」
そとは、まっくらです。

*1 釣鐘の小さいもの。本来は寺院・陣中などの合図に用いたが、江戸時代から火の見櫓(やぐら)につるし、火災・洪水・盗賊などの非常時に鳴らすようになった。

*2 寝るために設けるところ。布団などの寝具を調えた場所

*3 室内の仕切りや外気を防ぐのに用いる建具の総称。明かり障子・ついたて・ふすまなど。近年は、格子に組んだ木の枠に白紙を張った明かり障子をいう。

こうばんの まえには、けいかんが たっています。

「ごくろうさま。」

「ずいぶん はやい おでかけですね。」

しんぶんやさんが はしって きました。

かたてに もった しんぶんの たばから 一まい ひきぬいて、しゅっと
しごいて なげこみました。

また すぐ はしって いきます。

やさいを つんだ トラックも はしって きます。

にばしゃ^{*1}も ガラガラ とおって いきます。

いつの まにか きりが はれて、まちかどが、
はつきり みえて きました。

えきに つきました。

えきの 人たちは、

げんきよく はたらいています。

まちの いえいえでは、あさの したくが
はじまって、けむりが しずかに のぼって います。

かぜも ない よい おてんきです。

「でんしゃで しゅうてんまで いって、それから さきは きしゃにのろう。」
おとうさんが おっしゃいました。

シュツシュツ ポツポ シュツシュツ ポツポ

きしゃは ぼくらを はこんでいく。

まちを うしろに、たんぼや 川や、のはらが ひろびろ みえてくる。

きしゃは どこまで いくんだろ。

シュツシュツ ポツポ シュツシュツ ポツポ

ながく ならんだ まつくろな、かもつれつしゃも おいこした。

きしゃは はやいな、うれしいな。

むこうに うみが みえて きた。

トンネルを ぬけ、てつきょうを わたつて、

もみじの 山に かこまれた、小さな えきに つきました。

まさおは きしゃを おりて、つめたい くうきを

むねいっぱい に すいこみました。

*1 荷物を運ぶ馬車。

「まさお、ごらん。あれが やくばだよ。」

「おみせが ずいぶん なんんでいるなあ。」

「ゆうびんきょくや けいさつもあるね。」

さかを くだると おじさんの むらです。

どこからか、きくの かおりが してきます。

「やあ、いとが きれいだなあ。」「ここは そめものこうばだよ。」

「この 川 きれいだなあ。 はしも りっぱだね。」

おとうさんに あいさつして とおる 人がありました。